

背景

○若者の政治参加意識の低さが問題となっており、次世代を担うこどもたちの政治参加意識を育む必要があったことから、成長段階に合わせた主権者教育を実施。

事業の概要 〈開始年度：H27〜〉

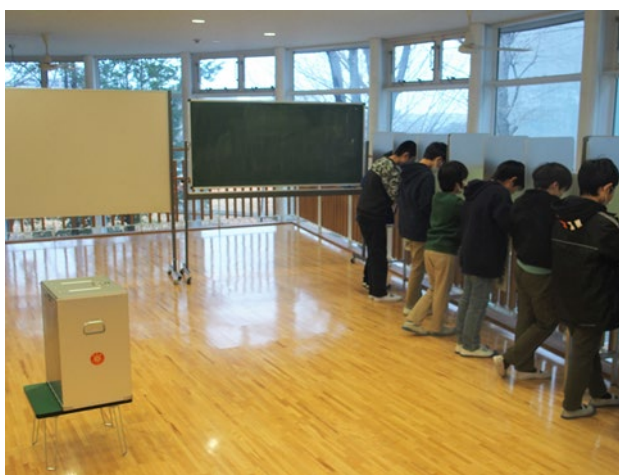
○小学校6年生を対象に「給食大臣選挙」を実施。

- ・令和4年度は、市内小学校17校中10校（約740名）で実施。
- ・テーマは小学生にとって身近な課題である給食の食べ残し
- ・3人の給食大臣候補者に課題解決策を掲げてもらい、児童がどの候補者の政策を支持するのかを考え投票することで、投票の意義や選挙の仕組みを学ぶ
- ・児童に応援演説をしてもらい、選挙に参加
- ・給食大臣候補者役は、明るい選挙推進委員（以下、推進委員）が担当

[▼給食大臣候補者]



[▼投票の様子]



工夫・注意点

- 出前授業の継続性・拡充（全校実施）を考え、体制図のとおり、授業実施における各主体の役割を明確にしている。
- 推進委員（大臣候補者）の参加者を増やすことを目的に、研修等を実施。

[▼市内小学6年生全児童へ配布]

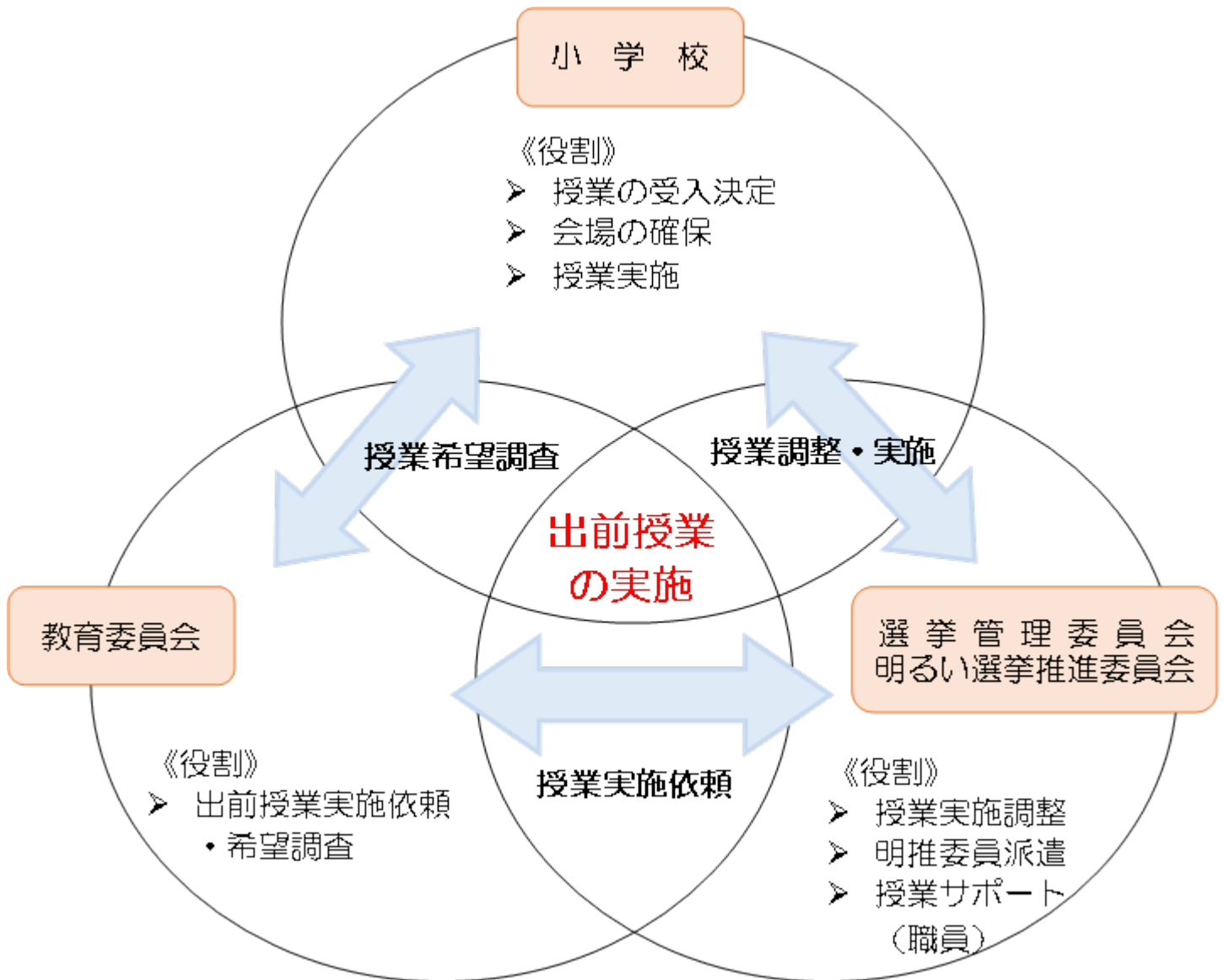


事業の効果・今後の展開

- 発達段階に応じた授業内容から、主権者として自ら考え判断し投票できたと、児童の感想文からも判断できる。
- 今後は、小学校全校での実施に向け、関係機関と連携し継続的に実施。

体制図

多摩市の主権者教育（小学校）



役割(負担)が集中することで、継続的な実施が困難になることから、役割を明確にして負担軽減に努めている。

教育委員会からの依頼及び希望調査により、教育現場としても取り組みやすい。

授業(選挙)を初めて体験する児童は、興味を示し率先して授業に参加していることから、主権者教育の趣旨である「自ら考え、判断し、投票する」ことを伝えることにより、自信をもって投票している。

また、授業実施後には、児童からの感想文の提出を依頼し、授業内容に問題はないか、改善が必要かを確認している。